

平成23年度川崎区区民会議第1回子ども部会

日 時：平成23年5月12日（水）18時30分～20時30分

場 所：川崎区役所7階第1会議室

出席者（敬称略）

（1）委員 5人

朴栄子、石渡勝朗、小泉忠之、鈴木真、深澤香織

1. 開会

（事務局）

<会議の成立、会議開催の事前公表、会議録の開示、傍聴の遵守事項、会議の記録、広報としての写真撮影を説明、出席者の紹介>

（小泉委員）

今年度より、川崎区小田地区の民生委員になった小泉である。よろしくお願ひしたい。区の会長になっていろいろなことがあり整理できていない部分もある。まず。この会議は何だろうなというところから入ると思う。お願ひしたい。

（事務局）

他の委員も自己紹介していただいた方が良いか。

（朴部会長）

それでは、自己紹介をお願ひしたい。

※各委員自己紹介

（事務局）

また、年度が変わり事務局の体制が変わった。（事務局、コンサルタント紹介）

それでは、進行を部会長お願ひしたい。

2. 議題

（1）子ども部会に関する課題解決について

①健康出前講座について

（朴部会長）

3月の部会については、震災のためなくなってしまったが、ラスト1年間のとりまとめを行っていきたい。みなさんにはご協力をお願ひしたい。

それでは、事務局より資料の説明をお願ひしたい。

(事務局)

それでは、資料をご覧ください。（資料1、資料2説明）

(朴部会長)

世代間交流の場ということでカラーリング大会、健康のことを子どもたちに意識してもらおう出前講座、地域での子育てと子どもの居場所ということで5つを3つに整理した。あと残りの期間でどれだけできるかが気になるが、できるところまで進めていきたいと思う。

すぐにできることとしては、出前講座には、2校手が挙がっているのので、保健福祉センターの力を借りながら粛々と進めていきたい。やっとなあとに検証を行う。

(石渡委員)

今のところ2校が手を挙げているということだが、私の方でも大師地区の中学校の意向が出てこなかったのので、川中島中学校と南大師中学校の方に声をかけている。川中島中学校の校長先生は、川崎区の中学校のとりまとめをやっているのので、そこから声をかけてもらった。そしたら数校手があがっているようである。南大師の方は、喫煙問題については夏休み前にやるそうである。このため、出前講座については、秋以降である。

(朴部会長)

モデル校としては、3～4校できそうなので、ポスターよりもまずは学校でやっていただいて、それを検証してからにしたいと思う。

⇒まずは、現在手が挙がっている3～4校でモデル的に出前講座を実施する。その後検証し、ポスターなどをつくる。

## ②世代間交流する場の拡充

(朴部会長)

それでは、続いてカラーリングであるが、世代間交流するためにカラーリングをどのように行うかである。こども文化センター、高齢者の施設を統括しているところ、子ども会などに声をかけてみよう、そして区でカラーリング大会ができれば良いと思う。大会については、私たちが企画から準備までやろうという話になっていたが、準備は区にお願いするという考え方もある。

(深沢委員)

カラーリングの目的が世代間交流であるが、資料1をみると地域の人と子育て中の人の交流の場づくりとあって、解決策として子育てサロン、町内会館、縁側、老人憩いの家を利用して、地域の人との接点をつくるというのがあるので、そこの施設に声をかけて、カラーリ

ングのチームをつくってもらい世代間交流や地域の人との出会いの場みたいな形にもっていきけると、良いのではないか。市民まつりで綱引き大会やっているが、そのような形で練習を兼ね、出場してもらえると今後もつながっていただけるのかと思う。

(石渡委員)

カローリングをやろうというのは決まったのか。

(朴部会長)

世代間交流をするのにカローリングをしようということである。

(事務局)

カローリングを体育指導委員に普及をお願いしているが、それとは別にやるか、それとも巻き込んでやっていくか。あと今年度の取組など。

こども文化センターでは、どのようにカローリングをやっていこうというのではないのか。

(朴部会長)

区の担当の人に教えに来てもらった。

(石渡委員)

私も直感的に考えて、地域の子育て中の親が地域の人と出会える場所に行ける、その中のいくつかは、世代間交流の場所でも良い。その中にカローリングのチームづくり、そのチームが交流・出会いの場ではないかということが考えられる。チームを出すことよりもチームづくりの方が世代間交流につながると思う。ただ、世代間交流と地域の人と子育て中の親が出会うことカローリングで一緒にしてしまうとわかりづらくなると思う。あと不登校支援とも違うと思う。

(朴部会長)

世代間が交流するとは、大人や子ども、障がい者も誰でも出会うということであったが、その中に子育て中の親も出会う場所づくりも提供していくということか。世代間交流のカローリングの中に子育て中の親も入れ、そこでメッセージを出せるようにしていくことが必要だと思う。こんな地域の人と一緒にできる場を求めていますといったことを発信する。

(石渡委員)

母親クラブが減っている。子育てをしている母親も減っているが、リーダーになる人がいなくなっている状況である。母親クラブが解体して別のところに流れていくようになっている。母親クラブに代わる子育ての親がカローリングのひとつのチームになれば良いと思う。

(朴部会長)

そう考えると大きな区の大会よりも地区ごとに大会があった方が良く。また、勝った負けただけでなくいろいろな人が出会えるような仕掛けが必要である。

(石渡委員)

各地区でできるわけでないので、どこかの地区がモデル地区になってやって示していくべきである。あとは具体的にどこの地区をターゲットにするか。

(朴部会長)

やりやすいのなら田島地区ではないか。以前も開催したこともあるので。それでは、カローリング大会は、子育て中の親が地域の人が出会えるように小さな地区で大会を開催する。そこで開催の主体はどこになるか。

(事務局)

田島地区であれば、田島支所を巻き込んだ方が良く。

(朴部会長)

区民会議が開催することはどうか。

(事務局)

他区の区民会議でもモデル的に開催するということは行われているので大丈夫だと思う。本格実施になると区民会議の手を離れることになるので、モデルで終わっては困る。

(朴部会長)

体育指導委員にお願いするのはどうか。

(副区長)

体育指導委員が行うのではないと思う。区民会議は企画して提案するところである。区の方は提案された企画案を受けて極力実施する義務があるわけである。先ほどモデル実施ということであるので、モデルで実施して可能かどうか検証するということが良いのではないか。

(小泉委員)

カローリングを良く知らないのだが、これは誰でもできるものなのか。場所がどんなところでやるのか、どういうものなのか説明していただけたらと思う。

(事務局)

※カラーリング説明

こども文化センターで開催した時は、小学校の体育館で開催したと思う。

(朴部会長)

小学校低学年は、力の関係でゲームが成り立たなかったが、ただ投げるということに興味を持つ子どもが多かった。

(鈴木委員)

先ほど母親クラブの解体の話だが、今の女性は外で働く人が多くなっているため、PTA役員や地域の活動などが難しくなっている。このような時代の中、母親たちを集めるというのは難しいと思うが、どうかのか。

(深澤委員)

働いている母親が多いのでPTA役員などを担う人がいないのが現実である。しかし、子どもが家に帰ってきて、地域の人が見ていてくれるというのは大事だし安心できると思う。母親クラブを再び活性化しようというものではない。地域で子どもたちを見ていてくれるというのは、働いている親でも関心があると思う。先日の地震のときでも一人で帰っていて泣いている子どもがいたらしいが、そこにいた地域のおじさん、おばさんが小学校まで連れて行ってあげたりということがあったらしく、そういうことが大事だと思った。特に働いているお母さんだとなおさら気になると思う。

(石渡委員)

働いているお母さんも毎日働いていない人もいる。そのような人たちも空いているときは面倒見ることができる。そういう場所があればありがたいと思う。しかし、母親一人一人のリーダー性がなくなっている。それを別のところへ求めている。そういう母親を支えてくれるようなところが必要だと思う。

(鈴木委員)

難しいこと考えるとできないので、一度やってみるのが良いと思う。

(朴部会長)

世代間交流としてカラーリング大会を開催することで考える。

(石渡委員)

誰が中心になって行うのか。

(朴部会長)

区役所、田島支所、区民会議、体育指導委員等が中心になって開催するのが良いと思う。どこかで会議を持つことが必要である。

(金子部会長)

部会でやるのか、それとも別の打ち合わせを開催するのか。

(朴部会長)

準備会みたいなものを行うのではないか。

(事務局)

それでは、後日日程を調整していただく。

⇒モデルとして1地区でカラーリング大会を開催する。モデル地区は田島地区とする。区役所、田島支所、区民会議、体育指導委員等が中心になって開催する。子育て中の母親にも声をかける。

⇒後日に打ち合わせを開催する。

### ③「こころの居場所づくり・不登校支援」

(朴部会長)

昨年、フリースペースや夢パークを見学にいったが、川崎区でも子どもサポート旭町の視察をどうするのかということがある。また、この問題を考えていく、知る必要があるということに気づいてきたと思うので、子どもたちがどんなことを求めているのか、どんなことが楽しいのかが私たちがわかっていない部分もあるので、調査したらどうかという意見もある。今年、区民アンケートがあると聞いているので、その中で子どもたちを把握する質問を入れたらどうかという提案をするのはどうかと思う。

(小泉委員)

子どもの現状のデータをなかなか学校は出してくれない。このため、よくわからない。学校側は、大丈夫だよっていつているが。

(朴部会長)

こども支援室で把握している不登校生徒数は、かなり多らしい。しかし、それは目に見えるわけではないし、学校側、また保護者側も隠す傾向にある。そのことが恥ずかしいと思われるところもあるので、その雰囲気を変える必要がある。昨年までそんな話をしてきたが、具体策がわからない。

(事務局)

サポート旭町の視察だが、やはり子どもたちがいるときは難しいと言われている。いないときに主宰しているNPOさんの話を聞いたりすることはできると思うが、やはりデリケートな問題である。

(朴部会長)

デリケートな問題ということで触れないようにしてしまうので、余計に外へ出てこない。いろいろな思いを持っている子どもの支える場所が必要だと思うが、実態把握ができなければ先走って作ってもうまくいかないし。そういう意味で区民アンケートを活用させてもらって現状把握ができないかと思っている。

(副区長)

私の前の部署では、昨年度に子ども権利条例についてアンケートを行っている。そのデータを活用できれば、区民アンケートを使わなくても、実態把握ができるのではないか。また、不登校の状況を学校は出したがらないということだが、教育委員会の対策で不登校プランというのがあって、その中でも位置付けているので、どういう実態を把握していて、どういう対策を行うのか、調べてみることも考えられる。あともう一つ、子どもサポート旭町であるが、あそこは思春期相談から出発したと思うが、最初はドクターがサポートに入ったという経過があると思うが、そこで不登校の子どもたちは、どういう傾向があるかということだが、外国籍の子どもが多いということである。もともと籍がないので不登校にもなっていないということらしい。

(朴部会長)

区民会議として何ができるということであるが、不登校の子どもたちを支えていける地域づくりをしようということしか言えないのではないか。もう少し違う意見があれば。

(副区長)

実際どういう状況なのか、市民、区民は知らないと思う。これを調べて区民に広く知ってもらう。民生・児童委員や、そのほか子どもに関わっている人たちに知ってもらうということで良いのではないか。そして次のステップとして、活動を行うということで良いのではないか。

(事務局)

何かをしなければいけないと考えると先に進めないと思うので、話し合いはしたが結果が出ない、継続的に話し合うでも良いと思う。

(副区長)

川崎区は、不登校の子どもたちに目を向ける区にするで良いと思う。

(石渡委員)

不登校の子どもは、心の病気なのか。どうやったら学校に戻すことができるのか。専門的に取り組めば解決が可能なのだろうか。

(鈴木委員)

思春期になるといろいろな病気が出る年頃である。統合失調症、ADHAなどである。不登校は、まとめて不登校なんだろうけど、原因はさまざまである。実態調査とあるが、私も把握したい。

(朴部会長)

今年度は、不登校の子どものことを知ってもらうということに力を入れたらどうか。フリースペースえんに行ったときに、寄り添えばいいんだと言われたが、まさにそうで、そのような方向になるためには、まずは把握することから始めたい。

(鈴木委員)

先ほどいろいろな原因があると言ったが、対応にもいろいろあって、学校なんか行かなくていいよ、という方法もあるし、病院へ行って治療するという方法もある。自閉症だって決めつけなくて長い目でみるという方法もある。いろいろあるので、まずは実態把握が必要だと思う。

(事務局)

不登校の子どもを持っている親も自分だけというふうに思っているかもしれない。そういう悩みを親どうしで共有できたら良いかもしれない。

(深澤委員)

最初にやったときにアンケートの400人という資料は、ここだけのものか、それとも広く市民に発信したか。

(事務局)

それを基にしてつくっているプランについては、広く発信していると思う。ただ、一般の人が読むような内容ではない。



(深澤委員)

そういう子どもを持っている親は、自分だけと思っている場合が多い。そういう人たちが共有できたら楽になると思う。また、そのような状況を区民で共有することが最初のきっかけだと思う。

(朴部会長)

去年の情報を聞いて、不登校の子どもが多いことに驚いた。しかし、こども文化センターなどには、学校の時間帯に来る子どもは、大変少ない。こころの居場所づくり・不登校支援については、情報把握からはじめたいと思う。

#### ④「自由に思いっきり遊べる場所づくり」

(朴部会長)

今のところ川崎区にも夢パークがあれば良いという方向になっているが、そもそも思いっきり身体を動かして外遊びができる場所があれば良いと思う。夢パークをつくるというのはどうなのかと思う。本来は、地域の公園でできれば良いと思うのだが。

(小泉委員)

夢パークとは何か。夢パークとは、施設を何かつくるということか、それとももっと小さな広場で自由に遊べるようにするのか。

(朴部会長)

高津区下作延にある川崎市子どもの権利条例を具現化した施設である。自由に遊ぶことができる。川崎区でもそのような施設がほしいということであるが、夢パークがほしいということになってしまっている。地域教育会議でも川崎区に夢パークがほしいという議論をしている。本来は、地域の公園が規制がなく自由な遊び場になれば良いと思う。ただ、夢パークをつくるとなると予算がかかることなので。

(小泉委員)

夢パークということで何をイメージしているかということで質問した。子どもたちが自由に遊べる場所があればということであるならば理解できた。

(副区長)

※川崎市子ども夢パークの説明

(小泉委員)

では、川崎区で思いっきり遊べそうな場所はどこか、ということでは、まずは浮島の方ということであるが、実際は子どもはあまり行かない。そうすると、富士見公園や小田公園の

整備というがあるので、それと併せて自由に遊べる公園をつくったらどうかという話を議員さんを交えてしている。区民会議でもそのような話をしているのであれば、提言として出すべきだと思う。あとは、それぞれの小さな公園でやるということもあるが、そのためには、道路公園センターの許可を得ないといけない。そのあたりを調整して区民会議が自由に遊べる公園を提案すれば良い。

(朴部会長)

そこまでは、大人の考えであって、子どもたちはどんな公園を望んでいるのか。それと公園を使うということは、公園の管理と関わっているが、川崎市の北部の方では、公園を冒険遊び場づくりをしている区がある。そのようなところを調べて、川崎区ではどんなことができそうか提案することが良いと思う。

(荒井委員)

あと地域の要望も必要である。地域の子どもたちがどのようなものを望んでいるのか。川崎区の公園は、すでに出来上がっている。北部は、まだ緑が多かったりしているが。川崎区の出来上がった公園をどのように活用できるか。

(朴部会長)

あと施設開放も調べる必要もある。子どもだけで使えるのかなど。

(事務局)

施設開放だと団体利用になると思うが。

(朴部会長)

子どもが自由に使える公共施設は、このあたりでは、川崎市体育館だけだと思う。

(深澤委員)

しかし、一部に限られる。

(朴部会長)

今後は、どのような施設が使いそうか調べる必要がある。実は川崎区は、野球場だらけでつかえない。そういう状況も把握すべき。何年か前に子どもから出されたのだがバスケットコートがない、子どもの目線の意見である。このようなところから、子どもたちから意見を聞くためのアンケートを実施したらどうか。

(副区長)

市民・こども局では、5年に1回、青少年の実態調査を行っている。居場所はどこかとか、どういったところで遊んでいるかとか、学校が終わったらどうするのかなどの項目がある。これらを参考に検討できると思う。次回にお示ししたいと思う。また、発表されているのは、川崎市全体のデータであるが、川崎区のデータに絞り込むことも可能である。

(朴部会長)

これは、子ども部会だけが知るのではなく、区民全体で把握できるようにしたい。子ども部会では、今年度6回計画されている。このため、少し検討する計画をつくりたい。次回は、カラーリングのことを検討する。次回(1回目)には、ほぼ出来上がった企画案ができている必要がある。2回目には、団体等との調整も終わり、具体的なスケジュールも出されている。健康出前講座については、手が挙がっている中学校で実施してから検証を行う。

(副区長)

検討計画については、次回までに事務局の方で案を作成して示す。

(事務局)

中間報告書の修正については、時間がないので部会長一任で良いか。

(石渡委員)

部会長一任でお願いしたい。

## 2. その他

### (1) 区の花選定委員会委員選出について

(事務局)

昨年度までに決まっていることだが、各部会より区の花選定委員会委員選出することになっている。子ども部会ではどうか。

(朴部会長)

宮崎委員にあたるのはどうか。

⇒宮崎委員にお願いすることが確認された。

### (2) 次回の日程

⇒次回の子ども部会の日程は、6月13日(月)の方向で検討された。

以上